



多彩なリズムとともに、アコースティック・ギターの演奏が楽しめます

DR-01s Rhythm Partner

取扱説明書

こんな音が出せます.....	2
各部の名称とはたらき.....	4
電池を入れる.....	5
リズムを鳴らす.....	6
好みの設定を登録する (フェイバリット)...	8
さらに進んだ使いかた (演奏編).....	10

さらに進んだ使いかた (設定編).....	13
資料.....	20
安全上のご注意.....	22
使用上のご注意.....	22

本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」と「使用上のご注意」（『安全上のご注意』チラシと取扱説明書（P.22））をよくお読みください。お読みになったあとは、すぐに見られるところに保管しておいてください。

こんな音が出せます

シェーカー、マラカス



どちらも中に小さな玉が入っていて、振ることで音が鳴ります。ラテン音楽でよく使われます。マラカスはヤシ科の「マラカ」の実で作ります。マラカスはマラカの複数形です。

ベル



振って音を出す楽器です。楽器以外にもベルと呼ばれるものが多いので、区別して「スレイベル」（そりの鈴）とも呼ばれます。

ホイッスル



ホイッスルは「アピート」とも呼ばれ、サンバの演奏で使われる笛です。両サイドの穴を開け閉めしながら吹いて、音程を変化させます。

ハンド・クラップ、ボンゴ

フィンガー・スナップ



手拍子や指を鳴らすサウンドです。



口径の異なる2つの太鼓をつないだキューバの民族楽器です。

径の小さい方を「マツチョ」（男性、大きい方を「エンブラ」（女性）と呼びます。

パイラ



ティンパレスの胴を叩いた音（奏法）です。ティンパレスの胴を「パイラ」と呼ぶことに由来しています。

コンガ



たる型の胴にヘッド（革）を張った、キューバの民族楽器です。本来、ヘッドのサイズによって名前が違いますが、総称して「コンガ」と呼ばれています。

ドラム・セット



スネア・ドラム、バス・ドラム、シンバルなど複数の打楽器を組み合わせたものです。

DR-01sには、スタンダード、ロック、ブラシ、エレクトロのドラム・セットを内蔵しています。

タンバリン



丸い枠(胴)に複数の小さなシンバルが付いています。叩いたり振ったりして音を鳴らします。

クラベス



2本の棒を互いに打ち合わせて鳴らす打楽器です。

トライアングル



ひもでつるし、三角形の辺を金属のばちで打って鳴らします。

パンディロ



皮の張り方を変化させながら叩くことで、音の高さを変えることができる、ブラジルの打楽器です。

カウベル

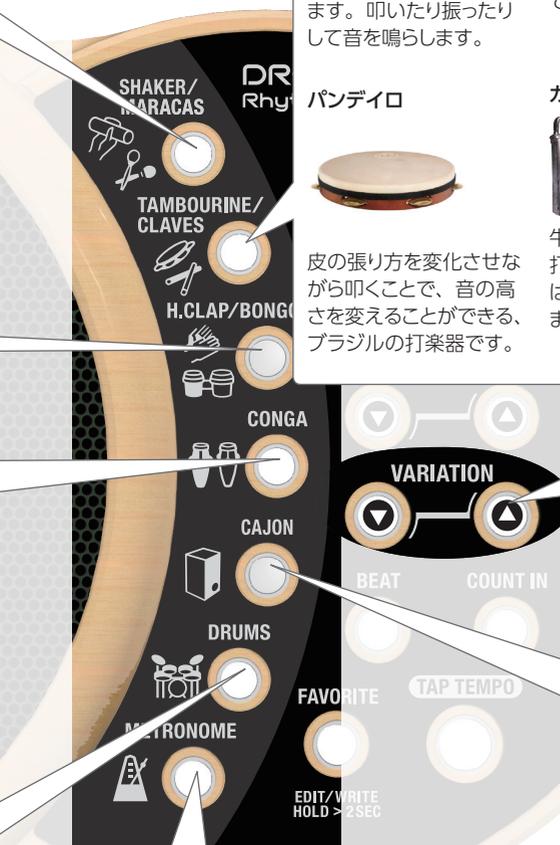


牛の首に付けるベルを打楽器にしたものです。ばちで叩いて音を出します。

ギロ



外側に刻みを付けた楽器です。ばちでこすって音を出します。



リズム・パターンや、楽器は、VARIATION [▼] [▲] ボタンで変更することができます (P.7)。

カホン

ペルーを発祥とする打楽器で、箱形の本体にまたがり、手で打面やフチを叩いて演奏します。箱の中に響き線(スネア)を仕掛けて演奏することもあります。

メトロノーム



一定のテンポで音を出す音楽ツールです。機械式メトロノームの他、電子音、ドラム・スティック音などを鳴らすことができます。

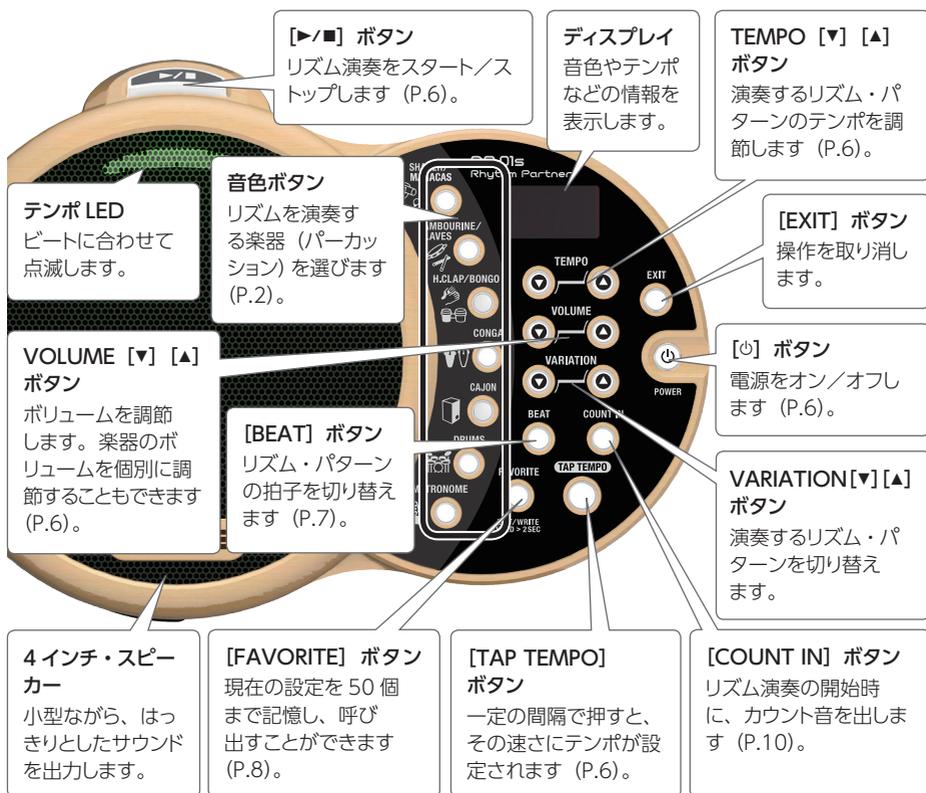
効果音



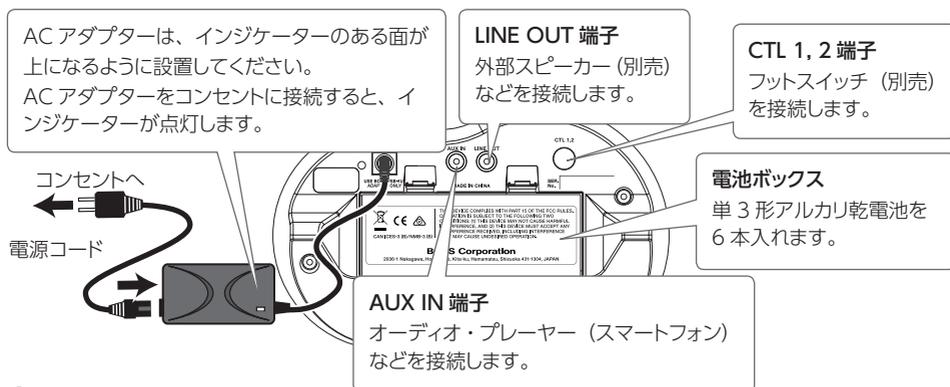
波の音、小鳥のさえずり、雨の音を収録しています。

各部の名称とはたらき

フロント・パネル

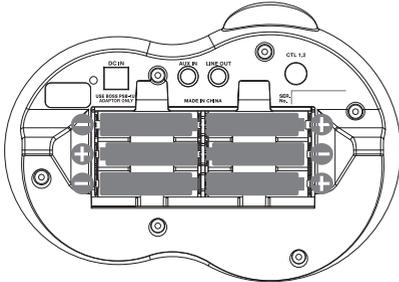


リア・パネル



電池を入れる

電池で使用するときには、電池の向きに注意して、単 3 形アルカリ乾電池を 6 本入れてください。



- ※ 本機を裏返すときは、破損を防ぐためボタンやつまみなどを保護してください。また、落下や転倒を引き起こさないよう取り扱いに注意してください。
- ※ 電池の使いかたを間違えると、破裂したり、液漏れしたりする恐れがあります。『安全上のご注意』チラシと取扱説明書に記載の電池に関する注意事項 (P.22) を守って正しくお使いください。
- ※ スピーカーの磁力により、電池が電池ボックスに吸い付くことがあります。異常ではありません。

※ 本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (Auto Off 機能)。

自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください (P.18)。

ご注意!

- 電源が切れると編集中の設定は失われます。残しておきたい設定はあらかじめ保存しておいてください。
- 電源を再びオンにするときは、電源を入れ直してください (P.6)。

メモ

以下の表示がされたときは、電池が少なくなっています。

bt

バッテリー・ロー表示
電池が残りわずかです。

何かボタンを押すと表示は消えますが、1 分後に再び表示されます。

AC アダプターを接続してお使いになるか、新しい電池に交換してください。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

リズムを鳴らす

電源を入れる

1. [⏻] ボタンを押します。

電源が入ります。

電源を切るにはもう一度 [⏻] ボタンを押します。

音色を選ぶ

1. 音色ボタンを押して、音色 (P.2) を選びます。



押した音色ボタンが点灯します。

2. [▶/■] ボタンを押します。



選んだ音色でリズムが鳴ります。

2

小節
リズム・パターンの小節を表示します。

メモ

- 音色ボタンを複数押すこともできます。選んだ音色が重なってリズムが鳴ります。
- [EXIT] ボタンを押しながら [COUNT IN] ボタンを押すと、小

節の表示／非表示を切り替えることができます。

ボリュームを調節する

1. VOLUME [▼] [▲] ボタンで、リズムのボリュームを調節します。

100

ボリューム
ボリュームを表します。

テンポを調節する

1. TEMPO [▼] [▲] ボタンで、リズムのテンポを調節します。

120

テンポ
リズムのテンポを表示します。

メモ

一定の間隔で [TAP TEMPO] ボタンを複数回押すと、その速さにテンポが設定されます。

リズムを止める

1. [▶/■] ボタンを押します。

リズムが止まります。

リズム・パターンを選ぶ

各音色には、複数のリズム・パターンが収録されています。

1. リズム・パターンを切り替えたい音色を選びます。

音色ボタンを点灯させます。点灯している音色ボタンを押すと、そのボタンは消灯します（音が消えます）。

そのときは、再度音色ボタンを押して点灯させてください（音を鳴らしてください）。

2. VARIATION [▼] [▲] ボタンを押します。



リズム・パターンが切り替わります。

音色ボタン	バリエーション番号 01 の表示例
[SHAKER/MARACAS]	H.0 1
[TAMBOURINE/CLAVES]	t.0 1
[H.CLAP/BONGO]	b.0 1
[CONGA]	C.0 1
[CAJON]	[.0 1
[DRUMS]	d.0 1
[METRONOME]	E.0 1

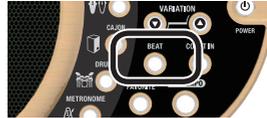
メモ

- 音色ボタンを押したまま、VARIATION [▼] [▲] ボタンを押しても、リズム・パターンを変えることができます。
- 複数の楽器音が収録されている音色ボタンでは、[EXIT] ボタンを押しながら、VARIATION [▼] [▲] ボタンを押すと、各楽器の先頭の番号を選ぶことができます。

拍子を切り替える

リズム・パターンの拍子を 3/4 拍子、4/4 拍子、6/8 拍子の中から選ぶことができます。

1. [BEAT] ボタンを押します。



現在の拍子が表示されます。

4/4

BEAT (拍子) 表示
リズム・パターンの拍子を表します。
(4/4 拍子の例)

[BEAT] ボタンを押すたびに、拍子が切り替わります。

表示	説明
3/4	3/4 拍子
4/4	4/4 拍子
6/8	6/8 拍子

ここまでが DR-01s の基本的な使いかたです。

さらに進んだ使いかたは、次のページで紹介します。

➔ 次のページへ

好みの設定を登録する(フェイバリット)

音色の組み合わせ、リズム・パターンなど、よく使う設定を 50 個まで登録することができます (フェイバリット機能)。

登録した設定はいつでも呼び出すことができます。

登録する

1. [FAVORITE] ボタンは消灯していることを確認します。
2. 登録したい音色やリズム・パターンを選びます。
3. [FAVORITE] ボタンを長押しします (2 秒以上)。

VARIATION [▼] [▲] ボタンが点滅し、登録先のフェイバリット番号が表示されます。



フェイバリット番号
(点滅)

設定を登録するフェイバリット番号を表示します。

4. VARIATION [▼] [▲] ボタンを押します。

登録先のフェイバリット番号 (F.01 ~ F.50) を選びます。

5. [FAVORITE] ボタンを押します。

選んだフェイバリット番号に設定が登録されます。

メモ

カウント・イン (P.10) のオン/オフの状態は、フェイバリットに登録できません。

呼び出す

1. [FAVORITE] ボタンを押します。

VARIATION [▼] [▲] ボタンが点灯し、フェイバリット番号が表示されます。

2. VARIATION [▼] [▲] ボタンを押します。

フェイバリット番号 (F.01 ~ F.50) を選ぶと、登録した設定が呼び出されます。

[▶/■] ボタンを押せば、呼び出した設定でリズムが鳴ります。

メモ

ここでは、音色のオン/オフの操作ができます。音色のバリエーションを変更するには、エディット機能を使います (P.9)

フェイバリット機能を終了する

フェイバリットの呼び出しをやめるには、もう一度 [FAVORITE] ボタンを押します。VARIATION [▼] [▲] ボタンが消灯し、テンポ表示に戻ります。

好みの設定を登録する(フェイバリット)

登録されたフェイバリットをエディットする

フェイバリットに保存された設定を修正し、登録し直すことができます。

1. [FAVORITE] ボタンを押します。

VARIATION [▼] [▲] ボタンが点灯し、フェイバリット番号が表示されます。

2. VARIATION [▼] [▲] ボタンを押します。

エディットしたいフェイバリット番号 (F.01 ~ F.50) を選びます。登録した設定が呼び出されます。

3. [FAVORITE] ボタンを長押しします (2 秒以上)。

[FAVORITE] ボタンが点滅します。このときは、フェイバリットがエディットできるようになります。

4. 音色やリズム・パターンを変更したり、設定を変更したりします (エディットします)。

5. [FAVORITE] ボタンを長押しします (2 秒以上)。

VARIATION [▼] [▲] ボタンが点滅し、登録先のフェイバリット番号が表示されます。



フェイバリット番号
(点滅)

設定を登録するフェイバリット番号を表示します。

6. VARIATION [▼] [▲] ボタンを押します。

登録先のフェイバリット番号 (F.01 ~ F.50) を選びます。

7. [FAVORITE] ボタンを押します。

選んだフェイバリット番号に設定が登録されます。

手順 2 の状態に戻ります。

メモ

ここでフェイバリット機能を終了するには、もう一度 [FAVORITE] ボタンを押します。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

さらに進んだ使いかた（演奏編）

演奏で使える便利な機能を説明します。

リズム・スタートの前にカウントを入れる

カウント音を入れてからリズムを鳴らすことができます。

1. [COUNT IN] ボタンを押します。

[COUNT IN] ボタンが点灯します。

[▶/■] ボタンを押したあと、1小節のカウント音を入れてからリズムを鳴らします。

カウント・イン
カウントを再生中であることを表示します。

メモ

カウント・イン機能をオフにするには、もう一度 [COUNT IN] ボタンを押します。

カウント・インのボリュームを調節する

1. [COUNT IN] ボタンを押したまま、VOLUME [▼] [▲] ボタンを押します。

カウント・インのボリュームが変わります。

カウント・インのボリューム

カウント・インの種類を変更する

カウント・インの音を変更したり、テンポLEDによるカウント（無音）にしたりすることができます。

1. [COUNT IN] ボタンを押します。

[COUNT IN] ボタンが点灯します。

2. [COUNT IN] ボタンを押したまま、VARIATION [▼] [▲] ボタンを押します。

カウント・インの種類を選びます。

表示		説明
c.01	c.07 c.08	ドラム・スティックでカウントします。
c.02	c.09	声でカウントします。
c.03	c.10	ハイハットでカウントします。
c.04 c.05	c.11 c.12	電子音（ピッピッ）でカウントします。
c.06	c.13	スピーカー上部のテンポLEDの点灯でカウントします。 このとき、カウント音は鳴りません。

カウント・インの種類
カウント・インの種類を表示します。

メモ

c.07～c.13は、2小節分カウントします。

リズムをフェード・アウトさせる

リズムのボリュームを徐々に小さくして (フェード・アウト) 止めることができます。

フェード・アウトはこんなときに使います

演奏の終わりでリズムを突然に止めると、不自然な演奏になることがあります。

たとえば、情緒的にブレイク (休止) を入れたいときはフェード・アウトをすると効果的です。

1. [EXIT] ボタンを押したまま、[▶/■] ボタンを押します。

フェード・アウトの長さ
フェード・アウトにかかる長さ (秒) を表示します。

[▶/■] ボタンを押すたび、設定値が切り替わります。

表示	説明
.00.	リズムがフェード・アウトしません。
.02. : .40.	リズムが指定の秒数でフェード・アウトします。

2. [EXIT] ボタンから指を離します。

3. [▶/■] ボタンを押します。

リズムが鳴ります。

4. [▶/■] ボタンを押します。

リズムがフェード・アウトし、止まります。フェード・アウト中は「F.0」と表示されます。

メモ

フェード・アウトの途中で再度 [▶/■] ボタンを押すと、リズムがすぐに止まります。

テンポを 2 倍 / 半分にする

テンポの設定を現在の 2 倍、または半分にすることができます。

1. [EXIT] ボタンを押したまま、TEMPO [▼] [▲] ボタンを押します。

- [EXIT] ボタンを押したまま、TEMPO [▲] ボタンを押すと、テンポが 2 倍になります。
- [EXIT] ボタンを押したまま、TEMPO [▼] ボタンを押すと、テンポが半分 (0.5 倍) になります。

メモ

- テンポの上限は 300、下限は 40 です。テンポを 2 倍にしたとき、または半分にしたときにこの範囲を外れる場合は、上限値 (300) または下限値 (40) に設定されます。
- テンポを半分にしたとき、整数未満の端数は切り捨てられます。たとえば、テンポ 151 を半分にしたときは 75 になります。

さらに進んだ使いかた (演奏編)

外部スピーカーを接続する

外部スピーカー（別売）を接続すると、大きな音でリズムを演奏することができます。

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。



メモ

DR-01sのLINE OUT 端子にプラグを差すと、DR-01sのスピーカーからは音が出なくなります。

スピーカーとして使う

外部機器で再生した音を、DR-01sのスピーカーで鳴らすことができます。



メモ

外部機器で再生するサウンドの音量は、外部機器側で調整してください。

さらに進んだ使いかた（設定編）

音色ごとに音量を調節する

複数の音色でリズムを鳴らしているとき、楽器ごとの音量を調節することができます。

1. 音量を変更したい音色ボタンを押したまま、VOLUME [▼] [▲] ボタンを押します。

音色ボリューム
音色のボリュームを表示します。

音色の音量を調節し、他の音色とのバランスを取ります。

2. 音色ボタンから指を離します。

メモ

効果音（波の音、小鳥のさえずり、雨の音）の音量は、リズムの演奏中に変更しても変化しません。リズムの演奏を止めると音量の変更が反映されます。

リバーブ・レベルを調節する

リズムにはリバーブ（ホールで鳴らしているような響きの効果）がかけられています。リバーブの量を変更することができます。

1. [EXIT] ボタンを押したまま、VOLUME [▼] [▲] ボタンを押します。

リバーブ・レベル
リバーブの量を表示します。

リバーブ・レベルを調節します。

表示	説明
r.00	リバーブはかかりません。
r.10	リバーブがかかります。
:	
100	

2. [EXIT] ボタンから指を離します。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

さらに進んだ使いかた (設定編)

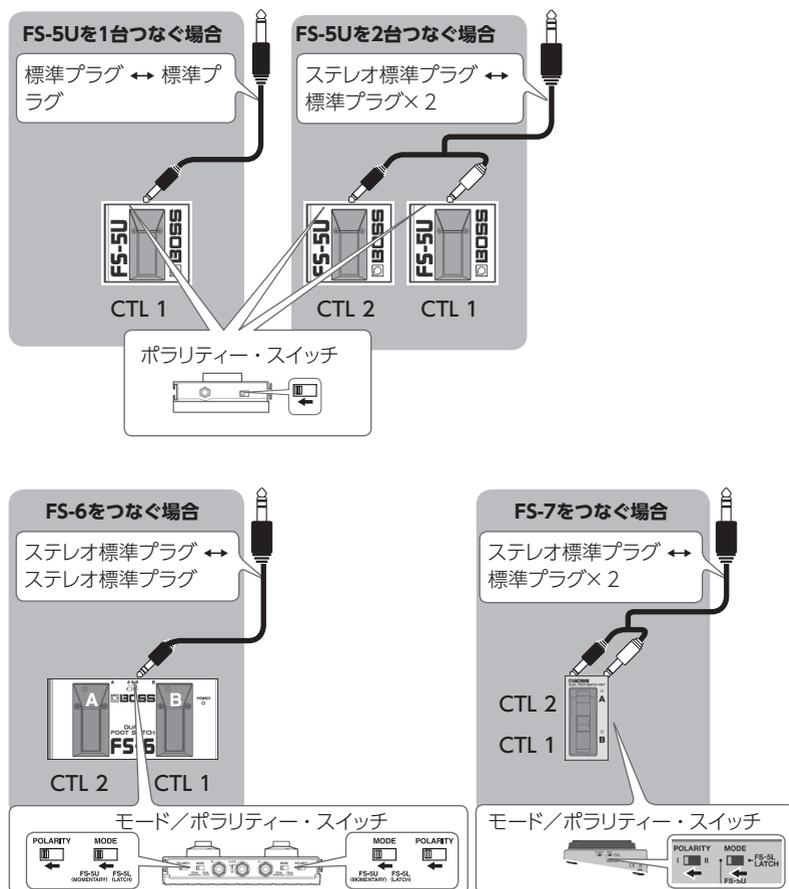
DR-01s をペダルでコントロールする

CTL 1, 2 端子にフットスイッチ (別売: FS-5U、FS-6、FS-7) をつなぐと、楽器から手を離さずに DR-01s をコントロールすることができます。

ペダルにさまざまな機能を割り当てて DR-01s をコントロールすること以外に、ペダルでパーカッション・サウンドを発音させたり、事前に登録したフェイバリットを呼び出したりすることもできます。

ペダルを接続する

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞って、すべての機器の電源を切ってください。



ペダルに機能を割り当てる

ここでは、FS-6 または FS-7 (それぞれ別売) の CTL2 (ペダル A) と CTL1 (ペダル B) に、機能やパーカッション・サウンドを割り当てる方法を説明します。

1. DR-01s の電源がオフの状態、 VARIATION [▲] ボタンを押しながら、 [⏻] ボタンを押します。

機能を割り当てるための専用のモードで DR-01s の電源が入ります。



CTL1 機能アサイン画面
CTL1 に機能を割り当てます。

CTL1 (ペダル B) の機能を設定できるようになります。

2. CTL1 に割り当てたい機能のボタンを押します。

押したボタンが CTL1 (ペダル B) に割り当てられます。

たとえば [▶/■] ボタンを押すと、ペダル B を踏むたび [▶/■] ボタンを押す動きをします。



[▶/■] ボタンを押した例
リズムのスタート/ストップが割り当てられます。

3. [⏻] ボタンを押します。

DR-01s の電源を切ります。

再度電源を入れると、ペダルに割り当てた機能を使うことができます。

ペダルでコントロールできる機能

ペダルに以下の機能を割り当ててコントロールすることができます。

機能	表示	説明
TEMPO [▲]	<i>t.uP</i>	テンポをコントロールします。
TEMPO [▼]	<i>t.dn</i>	
VOLUME [▲]	<i>U.o.u</i>	ボリュームをコントロールします。
VOLUME [▼]	<i>U.o.d</i>	
VARIATION [▲]	<i>U.R.u</i>	バリエーションを変更します。
VARIATION [▼]	<i>U.R.d</i>	
[TAP TEMPO]	<i>t.AP</i>	タップ・テンポを設定します。
[SHAKER/MARACAS]	<i>P.on</i>	楽器ボタンのオン/オフをコントロールします。複数の楽器を同時にオン/オフすることができます。
[TAMBOURINE/CLAVES]		
[H.CLAP/BONGO]		
[CONGA]		
[CAJON]		
[DRUMS]		
[METRONOME]		
[▶/■]	<i>StP</i>	スタート/ストップをコントロールします。
(割り当てを解除)	<i>oFF</i>	割り当てを解除します。 [BEAT] を押すと解除されます。

メモ

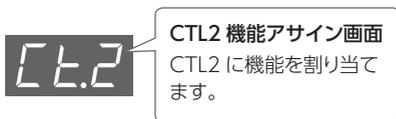
- [BEAT] ボタンを押したときは、ペダルへの機能の割り当てを解除しません (*oFF* 表示)。
- [COUNT IN] ボタン、[FAVORITE] ボタン、[BEAT] ボタン、[EXIT] ボタンの機能をペダルに割り当てることはできません。

さらに進んだ使いかた (設定編)

CTL2 に機能を割り当てる

1. 「ペダルに機能を割り当てる」

(P.15) の手順 1 のあと、[EXIT] ボタンを押します。



CTL2 (ペダル A) の機能を設定できるようになります。

[EXIT] ボタンを押すたび、機能を設定するペダルが交互に切り替わります。

パーカッション・サウンドを割り当てる

1. 「ペダルに機能を割り当てる」

(P.15) の手順 1 のあと、[COUNT IN] ボタンを押します。

VARIATION [▼] [▲] ボタンが点灯します。このときは、ペダルにパーカッション・サウンドを割り当てるできるようになります。

2. VARIATION [▼] [▲] ボタンを押して、CTL1 で鳴らしたいパーカッション・サウンドを選びます。

VARIATION [▼] [▲] ボタンを押すたび、パーカッション・サウンドが鳴ります。

選んだサウンドが CTL1 (ペダル B) に割り当てられます。

3. [0] ボタンを押します。

DR-01s の電源を切ります。

再度電源を入れると、ペダルに割り当てたパーカッション・サウンドを使うことができます。

ペダルに割り当てることができるパーカッション・サウンド

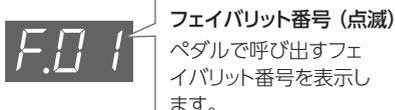
表示	パーカッション・サウンド
n.01	シェーカー
n.02	マラカス
n.03	スレイベル
n.04	ホイッスル 1
n.05	ホイッスル 2
n.06	タンバリン
n.07	タンバリン・ロール
n.08	パンデイロ 1
n.09	パンデイロ 2
n.10	クラベス
n.11	カウベル
n.12	トライアングル 1
n.13	トライアングル 2
n.14	ギロ 1
n.15	ギロ 2
n.16	ボンゴ・ロー
n.17	ボンゴ・スラップ
n.18	クラップ
n.19	フィンガー・スナップ
n.20	フラメンコ・クラップ
n.21	コンガ・オープン
n.22	コンガ・スラップ
n.23	カホン・フット
n.24	カホン・フット+スブラッシュ・シンバル
n.25	カホン・スラップ
n.26	スブラッシュ・シンバル
n.27	ドラムス・キック 1
n.28	ドラムス・キック 1+クラッシュ・シンバル
n.29	ドラムス・キック 2
n.30	ドラムス・キック 2+クラッシュ・シンバル
n.31	ドラムス・エレクトロ・キック
n.32	ドラムス・ストンプ
n.33	ドラムス・スネア 1
n.34	ドラムス・スネア 2
n.35	ドラムス・クロス・スティック
n.36	ドラムス・ハイハット・クローズ
n.37	ドラムス・ハイハット・ペダル
n.38	ドラムス・クラッシュ・シンバル
n.39	ウインドチャイム
n.40	ゴング
n.41	ビブラスラップ
n.42	雷

表示	パーカッション・サウンド
n.43	風
n.44	小鳥
n.45	メトロノーム
n.46	スティック
n.47	声 One
n.48	声 Two
n.49	声 Three
n.50	声 Four
n.51	電子音 1
n.52	電子音 2
n.53	電子音 3
n.54	エンディング (カホン)
n.55	エンディング (ドラムス)

フェイバリット番号を割り当てる

1. 「ペダルに機能を割り当てる」

(P.15) の手順 1 のあと、
[FAVORITE] ボタンを押します。
[FAVORITE] ボタン、VARIATION [▼] [▲]
ボタンが点灯し、フェイバリット番号
が表示されます。



2. VARIATION [▼] [▲] ボタンを押して、CTL1 で呼び出したいフェイバリット番号を選びます。

選んだフェイバリット番号 (F.01 ~ F.50)
が CTL1 (ペダル B) に割り当てられます。

3. [⏻] ボタンを押します。

DR-01s の電源を切ります。
再度電源を入れると、ペダルでフェイバリット
番号を呼び出すことができます。

ブレーク機能を割り当てる

リズム演奏を指定の長さ (小節数) でブレーク
(一時停止) します。

1. 「ペダルに機能を割り当てる」

(P.15) の手順 1 のあと、[BEAT]
ボタンを押しながら [COUNT IN] ボ
タンを押します。

VARIATION [▼] [▲] ボタンが点灯し
ます。



2. VARIATION [▼] [▲] ボタンを押して、ブレークしたい長さを選びます。

表示	説明
b.01	リズム演奏を指定の長さ (小節数) でブレークします。
:	
b.08	

3. [⏻] ボタンを押します。

DR-01s の電源を切ります。
再度電源を入れると、ペダル操作でブレーク
を使うことができます。

メモ

- ブレーク中は、[br]と表示されます。
- ブレークの長さを CTL1 と CTL2 で個別に割り当てることはできません。ブレークの長さを変更すると、CTL1 と CTL2 はともに同じ長さに設定されます。

さらに進んだ使いかた (設定編)

テンポ LED の色を変更する

テンポ LED を好みの色に変えることができます。

1. DR-01s の電源がオフの状態、
[COUNT IN] ボタンを押しながら、
[⏻] ボタンを押します。

テンポ LED の色を変える専用のモードで DR-01s の電源が入ります。



2. 強拍の色を VARIATION [▼] [▲] ボタン、弱拍の色を VOLUME [▼] [▲] ボタンで選びます。

設定できる色は以下のとおりです。

色	表示	色	表示
赤	r	ピンク	P
緑	G	水色	L
青	b	白	W
黄	y	消灯 (光りません)	o

工場出荷時は「rG」(強拍:赤、弱拍:緑)に設定されています。

3. [⏻] ボタンを押します。

DR-01s の電源を切ります。

再度電源を入れリズムを鳴らすと、指定の色でテンポ LED が点滅します。

メモ

設定中は、テンポ LED が点滅します。
このとき TEMPO [▼] [▲] ボタンで点滅の速さを変えることができます。

省エネの設定をする (Auto Off)

DR-01s は演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (Auto Off 機能)。

ライブでお使いになる場合など、電源が自動で切れないようにすることができます。

1. DR-01s の電源がオフの状態、
TEMPO [▲] ボタンを押しながら、
[⏻] ボタンを押します。

Auto Off の設定を変える専用のモードで DR-01s の電源が入ります。

2. VARIATION [▼] [▲] ボタンを押します。

演奏や操作をやめてから、自動で電源が切れるまでの時間を設定します。

表示	説明
oFF	Auto Off 機能は無効になります (自動で電源は切れません)。
1h	1 時間で電源が切れます。
2h	2 時間で電源が切れます。
3h	3 時間で電源が切れます。
4h	4 時間で電源が切れます。

工場出荷時の設定に戻す (ファクトリー・リセット)

DR-01s に記憶されているすべての設定を、工場出荷時の設定に戻すことができます。

ご注意!

ファクトリー・リセットの操作をすると、DR-01s に記憶されているデータはすべて失われます。大切な記憶内容はメモをしてください。

(巻末の「音色メモ」をお使いください。)

1. DR-01s の電源がオフの状態で、
[FAVORITE] ボタンを押しながら、
[⏻] ボタンを押します。



2. [FAVORITE] ボタンを押します。
[FAVORITE] ボタンが点滅します。
ファクトリー・リセットの操作をやめるには、
[EXIT] ボタンを押します。
3. 本当に工場出荷時の設定に戻してもよいときは、もう一度 [FAVORITE] ボタンを押します。
[oFF] と表示されます。



4. [⏻] ボタンを押します。
DR-01s の電源が切れます。

トラブルシューティング

トラブル	確認事項	対処
電源が入らない	付属の AC アダプターがコンセントと DR-01s に接続されていますか？	AC アダプターの接続を確認してください (P.4)。付属の AC アダプター以外は使わないでください。故障の原因となります。
	乾電池は入っていますか？	電池の向きに注意して、単 3 形アルカリ乾電池を 6 本入れてください (P.5)。
	アルカリ乾電池をお使いですか？	また、マンガン乾電池は使わないでください。
音が出ない	ボリュームは適正ですか？	ボリュームを上げてください (P.6)。
	音色ごとに設定できるボリュームが「0」になっていませんか？	また、音色ごとに設定できるボリュームが上がっていることを確認してください (P.13)。
	音色ボタンがすべてオフ (消灯) になっていませんか？	音色ボタンを点灯させてください (P.4、P.6)。
	LINE OUT 端子にプラグが差し込まれていませんか？	LINE OUT 端子に接続されているプラグを抜いてください (P.4、P.12)。
	アルカリ乾電池をお使いですか？	新しい単 3 形アルカリ乾電池を 6 本入れてください (P.5)。 また、マンガン乾電池は使わないでください。
AUX IN 端子に接続した機器の音が小さい	抵抗入りの接続ケーブルを使っていますか？	抵抗入りの接続ケーブルは使用しないでください。
音色のバリエーションが変更できない	[FAVORITE] ボタンが点灯していませんか？	[FAVORITE] ボタンが点灯 (フェイバリット機能がオン) のときは、音色のバリエーションは変更できません。バリエーションを変更するには、以下のいずれかの操作をしてください。 <ul style="list-style-type: none"> • [FAVORITE] ボタンを押して消灯させる (フェイバリット機能をオフ) (P.8) • [FAVORITE] ボタンを長押しし、フェイバリットのエディットをする (P.9)

主な仕様

ボス リズム・パートナー DR-01s:リズム・マシン

最大同時発音数	24	
テンポ	40 ~ 300	
拍子	3/4、4/4、6/8	
音色	シェーカー マラカス ベル ホイッスル タンバリン パンデイロ クラベス カウベル トライアングル ギロ ボンゴ ハンド・クラップ パイラ コンガ カホン ドラム メトロノーム 効果音	
フェイバリット数	50	
定格出力	7W	
スピーカー	10cm (4 インチ)	
ディスプレイ	7 セグメント 3 桁 LED	
DA 変換	24 ビット	
規定入力レベル	AUX IN : -20dBu	
入力インピーダンス	AUX IN : 22k Ω	
規定出力レベル	LINE OUT : -10dBu	
出力インピーダンス	LINE OUT : 1k Ω	
推奨負荷インピーダンス	LINE OUT : 10k Ω以上	
接続端子	LINE OUT 端子	ステレオ・ミニ・タイプ
	AUX IN 端子	ステレオ・ミニ・タイプ
	CTL 1, 2 端子	TRS 標準タイプ
	DC IN 端子	

電源	アルカリ電池 (単 3 形× 6 : 別売) AC アダプター
消費電流	330mA
連続使用時の電池の寿命	アルカリ電池 : 約 10 時間 (使用状態によって異なります)
外形寸法	210 (幅) × 143 (奥行) × 127 (高さ) mm
質量	900g
付属品	取扱説明書 【安全上のご注意】 チラシ AC アダプター 保証書 ローランド ユーザー登録カード
別売品	フットスイッチ : FS-5U デュアル・フットスイッチ : FS-6、FS-7

* 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

安全上のご注意

警告

Auto Off 機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (Auto Off 機能)。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください (P.18)。



警告

付属の AC アダプターを AC100V で使用する

AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。



付属の電源コードを使用する

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



使用上のご注意

電池について

- 電池の消耗が著しいと音が歪みやよくなる場合がありますが故障ではありません。このようなときは電池を交換するか、付属の AC アダプターを使用してください。
- 電池で使用する場合はアルカリ電池の使用をおすすめします。
- 電池が入っていても、電源を入れたまま電源コードをコンセントから抜いたり、AC アダプターを本体から抜いたりすると、電源が切れます。このとき保存していないデータは、消えることがあります。電源コードや AC アダプターは、必ず電源を切ってから抜いてください。

設置について

- 設置条件 (設置面の材質、温度など) によっては、本機のゴム足が設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。
- 本機に時計や磁気カードなど、磁力に弱いものを近づけないでください。

修理について

- 修理を依頼されるときは、事前にメモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- 当社では、本機の補修用性能部品 (製品の機能を維持するために必要な部品) を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとでも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はメモをしてください。

- ・失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- ・抵抗入りの接続ケーブルは使用しないでください。
- ・スピーカーの磁力により、電池が電池ボックスに吸い付くことがあります但し異常ではありません。

知的財産権について

- ・第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、実演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- ・第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。
- ・製品に内蔵、付属されたコンテンツ（音波波形データ、スタイル・データ、伴奏パターン、フレーズ・データ、オーディオ・ループ、画像データなど）の著作権は当社が保有しています。
- ・製品に内蔵、付属されたコンテンツ（ただしデモ曲などの楽曲データは除く）を素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布をすることに関しては、当社の許諾を必要としません。
- ・製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピューター・ネットワークを通じて公開したりすることはできません。
- ・Roland、BOSS は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- ・文中記載の会社名および製品名などは、各社の登録商標または商標です。



ボス株式会社

〒413-2103 静岡県浜松市北区新都田一丁目5番3号